

令和6年度シラバス

(Iコース1年)

日本大学東北高等学校

目 次（Iコース1年）

学校シラバス	1	
Iコース1学年教育活動シラバス	2～	3
現代の国語	4～	6
言語文化	7～	11
歴史総合	12～	14
公共	15～	18
数学I・A	19～	23
物理基礎	24～	26
化学基礎	27～	30
生物基礎	31～	33
体育	34～	39
保健	40～	43
音楽I	44～	45
美術I	46～	47
書道I	48～	49
英語コミュニケーションI	50～	52
論理・表現I	53～	56
総合的な探究の時間	57～	59

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

1. 奉仕と思いやりの心を持つ 2. 新校舎を大切に学ぼう 3. 自ら学び、考え、道をひらこう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育、教科指導を計画的に推進し、学力の定着と向上を図り、生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し、生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し、幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に、学外からの出前講座、教員による校内講座を行い、幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し、グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で、英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で、英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に、ケンブリッジ大学研修を実施する。
自主的・主体的な学習への取り組みを通して、社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に、春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて、各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して、生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して、人間的成長を促し、円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して、団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して、心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して、自主性や創造性、協働性を身に付けるとともに、仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して、広く芸術に触れ、親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて、自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに、安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画、防災マニュアル（安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル）を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練、および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業、ホームルーム活動を通じて、安全や健康について学習する。 4 交通安全教室、スマホ安全教室等を実施し、生徒の危機管理意識を育成する。

I コース 1 学年 教育活動シラバス

月	指導内容等	指導のねらい
4	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式 ・対面式・1学期始業式 ・①進路希望調査 ・①体育クラス集会 ・部活動説明会 ・健康診断、身体測定、歯科検診 ・校内オリエンテーション ・基礎学力到達度テスト ・シェイクアウト訓練 ・個人面談 ・服装頭髪指導 ・学級懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰属意識の確立 ・高校生への切り替え ・進路を考える「力」の育成 ・生徒の自律、自覚の育成 ・活動概要の理解と興味・関心の喚起 ・健康維持増進の啓発 ・有意義な学校生活を送るための準備 ・学力向上への啓発 ・防災意識の向上と啓蒙 ・精神面・生活面・学習面の個別指導・情報把握 ・規範意識の高揚 ・保護者との情報共有及び連携
5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒総会 ・自転車安全教室 ・①参観授業 ・春の交通安全登校指導，自転車点検 ・1学期中間試験 ・下宿訪問 ・身だしなみ向上週間 ・スマホ安全教室 ・①英検 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動への自主的参加 ・自転車の運転に関するルール・マナーの確認 ・授業の公開し保護者との連携強化 ・登校時の安全指導 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・下宿生に対する生活の確認 ・自己管理の意識付け ・スマホ使用に関するルール・マナーの確認 ・資格取得へのチャレンジ
6	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え、身だしなみ向上週間 ・①漢検 ・①数検 ・①校内体育大会（球技系） ・①学校生活アンケート ・1学期期末試験 ・思春期講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の変化の意識と、自己管理の意識付け ・資格取得へのチャレンジ ・資格取得へのチャレンジ ・行事を通して協働・協力する力を育む ・生徒の悩み等の把握 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・自己を守るための情報提供および予防啓発
7	<ul style="list-style-type: none"> ・アカシヤ祭 ・三者面談 ・芸術鑑賞会 ・実力診断テスト ・①進路ガイダンス ・1学期終業式 ・夏期進学講座 ・野球全校応援 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を通して協働・協力する力を育む ・保護者との連携及び生徒の状況把握 ・芸術観賞を通じた、豊かな情緒・感受性の涵養 ・普段の学習及び学力の定着確認 ・キャリア学習の意識付け ・1学期のまとめ ・1学期の学習内容確認と学力の定着 ・帰属意識を高め、愛校心を育む
8	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期進学講座 ・日大工学部学科探究 ・キャリアインタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の学習内容確認と学力の定着 ・工学部との高大連携教育を利用し、大学や学部についての理解を深める ・探究キャリア研究により進路を考える力を育成

9	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 学期始業式 ・ 服装頭髪指導 ・ ②進路希望調査 ・ ②体育クラス及び強化部集会 ・ スタディサポート ・ 文理クラス分け説明会(生徒対象) ・ 生徒会役員選挙 ・ ②参観授業 ・ ②学校生活アンケート ・ 秋の交通安全指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学期のスタートを円滑にする準備 ・ 規範意識の高揚 ・ 生徒の進路希望状況の把握 ・ 生徒の自律、自覚の育成 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 将来を見据えた進路決定へのサポート ・ 生徒会活動への積極的な参加 ・ 保護者との連携 ・ 生徒の悩み等の把握 ・ 安全な登下校の啓発
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣替え、身だしなみ向上週間 ・ ②校内体育大会 ・ 文理選択・コース変更説明会(保護者対象) ・ ②英検 ・ 2 学期中間試験 ・ 下宿訪問 ・ 授業評価アンケート ・ 体験特指(希望者) ・ ②献血 ・ ベネッセ総合学力テスト (1 1 月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己管理の意識付け ・ 行事を通して協働・協力する力を育む ・ 進路選択における保護者との情報共有 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 下宿生への生活指導 ・ 授業評価を通して客観的な視点を育む ・ コース変更希望者の体験学習 ・ 公共心の涵養、ボランティア体験 ・ 普段の学習及び学力の定着確認
11	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②進路ガイダンス ・ ②漢検 ・ 個人面談 ・ 身だしなみ向上週間 ・ I コース学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリアプレゼン大会 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 生徒の状況把握と進路選択への助言 ・ 自己管理の意識付け ・ より良い学校生活のための啓発
12	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身だしなみ向上週間 ・ 2 学期期末試験 ・ 2 学期終業式 ・ クリスマスフェスタ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己管理の意識付け ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 2 学期の総括 ・ 文化活動の発表
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学期始業式 ・ 服装頭髪指導 ・ ③体育クラス及び強化部集会 ・ ベネッセ総合学力テスト (1 月) ・ ③英検 ・ ③漢検 ・ ③進路ガイダンス ・ I コース学年集会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学期のスタートを円滑にする準備 ・ 規範意識の高揚 ・ 生徒の自律、自覚の育成 ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 基礎学力到達度テストに向けての啓蒙 ・ 1 年生の総括指導および次年度への意識付け
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学対策模試 ・ 薬物乱用防止講習会 ・ ③学校生活アンケート ・ 身だしなみ向上週間 ・ ②数検 ・ 予餞会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 薬物に対する認識と乱用防止の啓発 ・ 生徒の悩み等の把握 ・ 自己管理の意識付け ・ 資格取得へのチャレンジ ・ 3 年生へ感謝を伝え送別し、帰属意識を高揚
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学期期末試験 ・ 春期特別授業及びスタディサポート ・ 3 学期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習及び学力の定着確認 ・ 基礎学力到達度テストに向けた学力の向上 ・ 1 年間の総括

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
現代の国語	2	1 学年	I コース全クラス

教科書名 標準 現代の国語 (第一学習社)

副教材名 プログレス現代文 総演習 基本編 (いいずな書店)

現代語練習帳ことのは (いいずな書店)

1 科目目標

言語活動を通して、国語を的確に理解するとともに、効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深め、生涯にわたって読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学 期	4	(1)ガイダンス ①授業の進め方 ②予習復習の仕方 ・「ことのは」の小テスト実施。 ・「プログレス」の週末課題実施。	(1)問題集「プログレス」を用いて、演習問題に慣れる。語彙力養成のために「ことのは」に取り組み、知識を高める。 (2)評論文を通して、筆者の意見(主張)を正確に捉える力を養う。
	5	(2)「なぜ本を読むのか」又吉直樹 「世界は謎に満ちている」手塚治虫 (3)言語活動「論理的な表現」 ①主張と理由の主な流れを学ぶ。 ②グループ活動で発表活動を行う。 【一学期中間試験】	①作者の主旨を正確に読解する力を養う。 ②主旨の根拠を具体例から読解する力を養う。 ③二作品の共通観点を把握し、それに沿って対論を述べる力を養う。 (3)評論文の構造を学び、その知識を生かして、考えを客観的に述べる力を養う。
	6	(1)「言葉遣いとアイデンティティ」 中村桃子	(1)・(2)二項対立の文章を正確に読解し、対比によって主張に論拠を与える方法を学ぶ。
	7	(2)「水の東西」山崎正和 (3)言語活動「話し方の工夫」「待遇表現」 【一学期期末試験】	(3)話し言葉と書き言葉の使い分け、相手や場面に応じた話し方、表現技法、待遇表現を学び、正確な文章表現の力を身につける。
		【課題・提出物】 授業ノート・プログレス現代文	

<p>【1学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・小テストの平均点)</p>		
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
2 学 期	<p>9 (1)「言語としてのピクトグラム」 本田弘之</p> <p>(2)「ステレオタイプの落とし穴」 原沢伊都夫</p> <p>10 (3)生活の中の表現「法律改正に関わる 文章を読み比べる」 【二学期中間試験】</p> <p>11 (1)『弱いロボット』の誕生」 岡田美智男</p> <p>(2)「人はなぜ仕事をするのか」内田樹</p> <p>(3)言語活動「身近な製品の取扱説明書 を作成する」</p> <p>12 【二学期期末試験】</p>	<p>〈評論文〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旨を理解し、言語表現の多様性について考えを深める力を養う。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する力を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する力を養う。 <p>〈言語活動〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや事柄を的確に伝えられるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する態度を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する方法を学ぶ。 ・異なる形式で書かれた複数の文章を読んで、理解した内容をまとめる力を養う。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の方法を理解し、それを活用する態度を養う。
<p>【課題・提出物】読書感想文・授業ノート・プログレス現代文</p>		
<p>【2学期の評価方法】 定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・小テストの平均点)</p>		
月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
3 学 期	<p>1 (1)論理分析〈対比〉『間』の感覚」 高階秀爾</p> <p>2</p> <p>3 (2)論理分析〈具体と抽象〉「日本語は世界をこのように捉える」古浜逸郎</p> <p>(3)論理分析〈推論〉「AI は哲学できるか」森岡正博 【三学期期末試験】</p>	<p>〈論理分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する力を養う。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する力を養う。 ・事柄が的確に伝わるように、表現のしかたを工夫する態度を養う。 ・主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する力を養う。
<p>【課題・提出物】 授業ノート・プログレス現代文</p>		

<p>【3学期の評価方法】</p> <p>定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・小テストの平均点)</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>定期テストの平均点 80%+平常点 20%(提出物・授業態度・小テストの平均点)</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	定期試験・小テスト 提出物
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	授業態度・定期試験 発表活動・レポート
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	授業態度・小テスト 提出物・発表活動

4 学習サポート（事前・事後学習等について）【評論文】

評論文は文章構造を整理し、文の関係に従って抽象的に説明することが大切です。そのため本文から主張・根拠・対論・問題提起などの部分を探し、それを箇条書きにしてからまとめる学習習慣を身につける必要があります。

〈予習〉

- ・事前に作品を読み、主張文・根拠文・対論を探し、線を引いておく。
- ・本文中の難しい語句を辞書などで調べておく。

〈復習〉

- ・授業で学んだ内容を元に、問題演習形式で解答の仕方を定着させる。

【言語活動】

- ・グループ活動では積極的に話し合いを行う。
- ・本文の論点を正確に把握した上で、それに沿って話し合いを進める。
- ・資料を分析する際、客観的な根拠を踏まえた上で分析を行う。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
言語文化	3	1	Iコース全クラス

教科書名 標準 言語文化 (第一学習社)

副教材名 高校国語への基礎練習 (数研出版)

プロGRESS言語文化総演習 (いいずな書店)

新しい古典の学習 2 in 1 スタイル 学ぶぞ古文と漢文 (尚文出版)

新しい古典の学習 2 in 1 スタイル 学ぶぞ古文と漢文 基本練習ノート (尚文出版)

完全頻度順 入試対策ベストセレクション古文単語 3 2 5 (尚文出版)

現代語練習帳ことのは (いいずな書店)

1 科目目標

- ① 言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育む。
- ② 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、言語文化に対する理解を深める。
- ③ 論理的思考力、他者への共感力、豊かな想像力を育て、他者に自身の思考や主張を正確に伝える力を養う。
- ④ 言葉がもつ価値への認識を深め、読書に親しむ姿勢を養い、言語文化の担い手として必要な資質を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	◎ガイダンス ①年間授業計画の確認 ②予習復習について ・週末課題 「プロGRESS言語文化」 「古文と漢文基本練習ノート」 ・古文単語小テスト 「古文単語 3 2 5」 <u>1学期中間試験まで</u> [小テスト実施] 第1章 最頻出語 70 (1)「古典のしるべ」平仮名の誕生 「古文を読むために 3」 ①仮名遣い(五十音図) ②動詞の活用の種類	①年間授業計画と授業の進め方を理解する。 ②演習問題に慣れ、文学作品を読解する力を育成する。また、小テストを通して古典文章の読解に必要な古文単語の知識を身に付ける。 (1)古文読解に必要な歴史的仮名遣い・品詞の知識・動詞の活用の種類について学習する。 ①演習を通して復習する習慣を身に付ける。 ②活用表を暗記し、副教材を用いて動詞の活用の種類を理解する。

5	<p>(2)古文『三文にて歯二つ』(沙石集)</p> <p>①全体の内容を把握</p> <p>②用言の活用の種類・活用形</p> <p>(3)小説『とんかつ』三浦哲郎</p> <p>①作品全体の概要をまとめる。</p> <p>②登場人物の心情変化を整理する。</p> <p>③グループワークで心情変化をまとめる。</p> <p>【1 学期中間試験】</p>	<p>(2)古典文章を読み、言語文化への興味・関心を育成する。</p> <p>①全文を読み、概要を把握する力を育成する。</p> <p>②文法知識を実践して、文章読解における重要性を理解する。</p> <p>(3)小説を読み、人物像と心情を読み取る姿勢を育成する。</p> <p>①相手の立場や状況を客観的に理解する。</p> <p>②せりふや行動から人物像と心情を客観的に感じ取る力を育成する。</p> <p>③話し合いを通して、感情などの曖昧な事柄を他者に正確に伝える力を育成する。</p>
6	<p><u>1 学期期末試験まで</u></p> <p>[小テスト実施]第2章 最頻出語 112</p> <p>(1)「古文を読むために3」</p> <p>①形容詞・形容動詞の活用</p> <p>(2)古文『絵仏師良秀』(宇治拾遺物語)</p> <p>①内容と展開を的確に捉える。</p> <p>②作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>(3)詩歌『小景異情』室生犀星</p> <p>①文語体の詩のリズムや表記の特徴を捉える。</p> <p>②作品中のものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>(4)詩『I was born』吉野弘</p> <p>①作品中のものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。</p> <p>②「僕」が理解したイメージを共有し、感じ取った内容をグループで話し合う。</p>	<p>(1)形容詞・形容動詞の文法事項を理解する。</p> <p>①副教材を用いて形容詞・形容動詞の活用と種類を理解する。</p> <p>(2)説話を通して古典作品への親しみを深める。</p> <p>①良秀と人々の意識の相違を的確に捉え、客観的かつ論理的に他者へ説明する力を身に付ける。</p> <p>②既習の文法事項を用いて、内容を深く理解する。</p> <p>(3)言語文化への親しみを持つ態度を育成する。</p> <p>①文語表現に注目し、繰り返し音読することで作品にこめられた作者の思いを理解する。</p> <p>②詩の構成や表現の仕方を吟味し、進んで作者の思いを読み取る力を身に付ける。</p> <p>(4)散文詩に親しみ、作品名に込められた意味を理解する。</p> <p>①文中に表記された言葉に注目し、詩全体のイメージを理解する。</p> <p>②話し合いを通して、考えを共有する姿勢を身に付ける。</p>
7	<p>【1 学期期末試験】</p> <p>【夏季休業中の課題】</p>	

<p>【課題・提出物】 入学前課題・授業ノート・プロGRESS言語文化総演習・学ぶぞ古文と漢文練習ノート</p>		
<p>【1学期の評価方法】 1学期定期試験の素点平均を80%、小テスト平均点及び授業態度、提出物等を平常点の20%として算出する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>9 <u>2学期中間試験まで</u> 〔小テスト実施〕第3章 最頻出語 64 (1)小説『羅生門』芥川龍之介 ①行動や心理から場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ②小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを整理する。 (2)「学ぶぞ 古文と漢文」P49～59 ◎助動詞「き」「けり」「つ」「ぬ」「たり」「り」「なり」「たり」「ず」</p> <p>【2学期中間試験】</p>	<p>(1)言語文化に対する興味・関心を身に付ける。 ①行動や発話から人物の心理描写を客観的に捉えるための基本的な読解方法を身に付ける。 ②小説を意味段落で整理し、構成や展開を把握する視点を身につける。 (2)頻出度の高い助動詞文法を学び、逐語訳に必要な力を身に付ける。</p>
	<p>10 <u>2学期期末試験まで</u> 〔小テスト実施〕第4章 最頻出語 64 (1)随筆『うつくしきもの』(枕草子) ①「なる」「ぬ」「たる」の識別について学ぶ。 ②グループ活動を通して文脈に合う単語の意味を選択し、的確な逐語訳を行い発表する。</p>	<p>(1)随筆を読み、日本の伝統的価値観を学ぶ。 ①文法の識別方法を学び、基礎学力到達度テストに向けた必要な力を身に付ける。 ②共同作業と発表活動を通して、情報発信能力を養う。</p>
	<p>11 (2)漢文の学習・訓読に親しむ・『五十歩百歩』・『矛盾』</p>	<p>(2)漢文の訓読に慣れ、漢文に由来した言葉が多く存在していることを理解する。</p>
	<p>12</p> <p>【2学期期末試験】 【冬季休業中の課題】</p>	
	<p>【課題・提出物】 夏期休業中課題・授業ノート・プロGRESS言語文化総演習・学ぶぞ古文と漢文練習ノート</p>	
<p>【2学期の評価方法】 2学期定期試験の素点平均を80%、小テスト平均点及び授業態度、提出物等を平常点の20%として算出する。</p>		

月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 <u>3 学期期末試験まで</u> 〔小テスト実施〕 第 5 章・第 6 章 (1)歌物語『東下り』(伊勢物語)	(1)歌物語を通して和歌と物語の関係を学ぶ。 ①グループ活動を通して、能動的な学習習慣と説明する力及び聞く力を育成する。 ②助動詞を識別する実践的な力を育成する。 (2)文法の識別方法を学び、基礎学力到達度テストに向けた必要な能力を身に付ける。 (3)史伝という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える力を育成する。
	2 ①グループ学習で逐語訳に取り組み、担当範囲の口語訳を発表する。 ②「ぬ」の識別について学ぶ。 (2)「学ぶぞ 古文と漢文」P68～80 「らし・めり・なり・まし・なり・たり・る・らる・す・さす・しむ・まほし・たし」 (3)漢文史伝『鶏口牛後』(十八史略)	
	3 【3 学期期末試験】	
【課題・提出物】 冬期休業中課題・授業ノート・プログレス言語文化総演習・学ぶぞ古文と漢文練習ノート		
【3 学期の評価方法】 3 学期定期試験の素点平均点を 80%、小テスト平均点及び授業態度、提出物等を平常点の 20% として算出する。		
【年間の学習状況の評価方法】 定期テスト 5 回の平均点を 80%、小テスト平均点及び授業態度、提出物等を平常点の 20% とする。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	定期試験・授業態度・小テスト・課題状況
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	定期試験・課題状況・発表活動(グループディスカッション等)
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。	定期試験・小テスト・課題への取り組み状況・発表活動(グループディスカッション等)

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

年間の授業を通して古典文章に慣れるとともに、読解に必要な知識や方法を学んでください。予習は知識領域（古文単語・古典文法・漢文句形等）に少しでも取り組んでおくと授業内容の深い理解につながります。復習は副教材の問題演習を繰り返し行うことで読解力が定着します。例文をよく読み、文章全体の理解に努めましょう。1年次のうちに読解に必要な古典知識を定着させておくと2年次以降の授業内容の理解に大きく役立ちます。

小テストは事前に実施日と範囲をお知らせしますので、必ず予習をして臨むようにしてください。週末課題は語句や文法を自分で調べるなど地道に取り組む姿勢が大切です。計画的に学習に取り組む習慣を早期に身に付けてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
歴史総合	2	1学年	Iコース

教科書名 わたしたちの歴史 日本から世界へ (山川出版社)

1. 科目目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を学び、課題を追求・解決することにより、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会で主体的に生きることができる資質、能力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	ガイダンス 第1部(1) 18世紀の世界とアジア	・ 18世紀の世界の様子を理解する。
		(2) 産業革命	
	5	(3) アヘン戦争と日本	・ 19世紀の東アジアの様子を理解する。
		(4) 日本の開国	・ 19世紀の日本の様子を理解する。
		(5) 日本開国期の国際情勢	
		(6) 開国後の日本社会	
		1学期中間試験	
		(7) 市民革命と国民統合	・ 19世紀の世界の様子を理解する。
		(8) 明治維新	・ 明治維新による日本の近代化における、内政・外交の様子を理解する。
	6	(9) 富国強兵と文明開化	
		(10) 日本の明治初期の外交	
		(11) 大日本帝国憲法の制定	
		(12) 日本の産業革命と日清戦争	・ 20世紀の世界の様子を理解する。
		(13) 帝国主義	・ 20世紀の日本の様子を理解する。
	(14) 日露戦争と韓国併合		
	1学期期末試験		
【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題の提出をする。			
【1学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点(授業態度と課題・提出物)を20%として評価する。			

	月	学習内容	学習のねらい		
2 学期	9	第2部(1) 大衆運動の芽ばえ (2) 第一次世界大戦 (3) 第一次世界大戦と日本 (4) ロシア革命とその広がり (5) 社会運動の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20世紀の日本の民衆の様子を理解する。 ・ 20世紀に起こった第一次世界大戦と、大戦中に起こったロシア革命について理解する。 ・ 第一次世界大戦後の世界の様子を理解する。 ・ 1920年代の世界の様子を理解する。 ・ 世界恐慌によって変化した世界と、第二次世界大戦の勃発への世界と日本の様子を理解する。 ・ 第二次世界大戦時の世界の様子を理解する。 ・ 第二次世界大戦後の世界の様子を理解する。 ・ 第二次世界大戦後の日本の様子を理解する。 		
	10	(6) 国際協調 (7) アジアの民族運動 2学期中間試験			
		(8) 大量生産・大量消費社会 (9) 世界恐慌 (10) 独裁勢力の台頭 (11) 日本のアジア進出 (12) 第二次世界大戦 (13) 第二次世界大戦と日本			
	11	(14) 第二次世界大戦の終結 (15) 戦後国際秩序 (16) 冷戦の始まり (17) 日本の戦後改革と日本国憲法			
	12	(18) 日本の独立 2学期期末試験			
	【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課した課題と夏課題の提出を求める。				
	【2学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点(授業態度と課題・提出物、成果テストの結果)を20%として評価する。				
		月		学習内容	学習のねらい
	3 学期	12		第3部(1) 第三世界の登場 (2) 冷戦の固定化と「雪どけ」 (3) 冷戦の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦後に形成された冷戦対戦の変化について理解する。
		1			

2	(4) 55年体制と安保闘争 (5) 高度経済成長の光と影 (6) ベトナム戦争とアメリカ (7) 経済構造の変化 (8) 日本の経済大国化 (9) アジアの経済成長 (10) 社会主義の停滞と新自由主義 (11) 冷戦の終結 (12) 冷戦後の地域紛争 (13) 地域統合 (14) 現代世界の諸課題 (15) 日本の諸課題 3学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次世界大戦後の日本の政治・経済の変化を理解する。 ・ベトナム戦争後の世界経済の変化について理解する。 ・社会主義諸国の停滞による冷戦の終結と、冷戦後の地域紛争と地域統合の様子を理解する。 ・現代の世界と日本の諸課題を理解する。
【課題・提出物】 授業ノート・プリント、必要に応じて課題の提出を求める。		
【3学期の評価方法】 定期試験を80%、平常点（授業態度と課題・提出物）を20%として評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期・2学期・3学期の成績を総合的に評価する。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
知能・技能	授業内容を正確に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・定期テスト
思考力・判断力・表現力	先入観に囚われることなく、公正な立場から考察していくことができる。 授業で得た知識をもとに、歴史的事件の因果関係を解き明かすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	歴史に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを明らかにすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

- ・学習方法の相談、学習方法の指導。
- ・授業内容に関する質問対応。・自学プリントの作成と配布。・確認プリントまたは確認テストの実施。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
公共	2	1 学年	I コース

教科書名 高等学校 公共 (清水書院)

副教材名 高等学校 公共ワークノート (清水書院)

フォーラム 公共 2024 (どうほう)

1 科目目標

- 令和4年度から成人年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、高校生にとって政治や社会は一層身近なものになる。国家や地域社会、家庭など様々な集団を構成する一員としてよりよく生きるために必要な倫理、政治及び経済などの社会生活に関わる基礎的な知識を身につける。
- 人間と社会のあり方についての見方・考え方を深め、現代の諸課題を追求する活動を通して、広い視野をもち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力と態度を育成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	第1編 公共の扉をひらく 第1章 公共的な空間をつくる私たち 1 私たちの人生と社会 2 青年期の心理と課題 3 哲学の始原と発展－ギリシャ思想	○青年期とは、人生の中でどのように位置づけられているかを学び、課題について考え、理解する。 ○現代社会に大きな影響を与えているギリシャ思想、一神教、東洋の宗教がどのように展開していったか理解する。	
	5	4 一神教の教え 5 東洋の宗教と思想(1)－仏教 6 東洋の宗教と思想(2)－儒教 7 日本の風土と神仏への信仰 8 江戸時代の学問と近代化への歩み 1学期中間試験		○日本の伝統文化や思想について、神や仏に対する古くからの信仰について学び、私たちの生活や価値観とのつながりを学習する。
	6	第2章 公共的な空間における人間 1 義務論と功利主義 第3章 公共的な空間における基本的原理 1 近代的人間像の誕生(1) －近代の始まり 2 近代的人間像の誕生(2) －科学的な思考 3 国家社会と人間性(1)－社会契約説		

	<p>4 国家社会と人間性(2) ーヘーゲルとマルクス</p> <p>5 国家社会と人間性(3)ー実存主義</p> <p>7 6 公共性の復権と他者についての思考</p> <p>7 公正な社会と個人ー現代の政治思想</p> <p>1 学期期末試験</p>	
<p>【課題・提出物】</p> <p>定期試験後に授業ノート・ワークノート提出</p>		
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認を行う。</p> <p>②課題・学習態度の平常点(20%以内) 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況(期限の遵守・取り組み具合)について評価する。</p>		
月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	<p>9 第2編 基本的人権の尊重と法</p> <p>第1章 民主政治の原理</p> <p>1 近代国家と立憲主義</p> <p>2 日本国憲法の成立</p> <p>第2章 人権の尊重と日本国憲法</p> <p>1 日本国憲法の三原理と人権保障</p> <p>2 平和主義と国際社会</p> <p>3 平等権</p> <p>4 自由権</p> <p>5 社会権</p> <p>6 参政権の保障と国務請求権</p> <p>10 7 新しい人権</p> <p>8 グローバル化と国際人権</p> <p>2 学期中間試験</p> <p>第3編 現代の民主政治と社会参画</p> <p>第1章 民主政治の成立と課題</p> <p>1 自由民主主義の成立と危機</p> <p>2 現代の自由民主主義と課題</p> <p>3 世論の形成と民主社会</p> <p>11 4 政治参加と主権者(有権者)</p> <p>5 選挙と政党</p> <p>第2章 日本の政治機構</p> <p>1 国会の役割としくみ</p>	<p>○戦前・戦後の日本の政治体制を比較し、天皇の地位や国民の権利などの点に着目しながら多面的・多角的に考察する。</p> <p>○日本国憲法の三原理や基本的人権の内容について学び、判例などをもとに各人権を保障する諸制度について理解する。</p> <p>○現代日本で誕生した新しい人権とその背景、個人情報保護などの諸課題について理解する。</p> <p>○新聞・テレビなどのマスメディア、SNSが提供する情報の特徴を学び、世論の形成にどのような役割を果たしているか考察する。</p> <p>○選挙制度の問題や政治的無関心といった、現代民主政治の諸問題について理解する。</p> <p>○日本の政治機構について理解し、行政権の肥大化などの政治の諸問題について考察する。</p>

	2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民生活と司法参加 5 地方自治と住民の生活 2 学期期末試験	○三審制や違憲判決の事例をもとに、日本の最高裁判所の地位と権限について理解を深める。	
【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出			
【2学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認を行う。 ②課題・学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・取り組み具合）について評価する。			
月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	第4編 現代の経済社会と国民生活 第1章 私たちと経済活動 1 私たちと経済 2 仕事と社会 3 国民経済とGDP 第2章 社会のしくみと役割 1 社会のしくみとしての市場 2 市場の機能 2 3 市場の限界 4 金融とそのはたらき 5 財政とそのはたらき 6 現代の企業 7 労働問題 8 社会保障の役割 9 少子高齢化と財政の維持可能性 3 学期期末試験	○多様な契約及び消費者の権利と責任について取り上げ、消費者保護のための法制度を理解する。 ○経済指標としての国民所得について理解し、日本と諸外国の経済成長の差に着目して、その要因を考察する。 ○資本主義経済の発展と変容について、社会主義経済との違いに着目して理解する。 ○金融機関及び租税の役割、日本財政が抱える諸問題について理解する。 ○さまざまな企業の形態や企業の社会的責任、日本の労働環境の課題について理解する。	
	【課題・提出物】 定期試験後に授業ノート・ワークノート提出		
	【3学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認を行う。 ②課題・学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程において、観点別評価に基づき総合的に評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・取り組み具合）について評価する。		

【年間の学習状況の評価方法】

○総合評価は学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。

○平常点は以下を踏まえて20%以内とする。

①授業に対する意欲と関心

②課題等への取り組み（宿題等）

③年数回のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	国家や地域社会、家庭など様々な集団を構成する一員として、よりよく生きるために必要な倫理・政治・経済に関わる基礎的な知識を身につけている。	○定期試験 ○提出物
思考・判断・表現	知識・技能を活用して自身の考えを広げたり深めたりする表現力を身につけている。また、現代社会の諸問題について、事実にもとづき多面的・多角的に考察し、問題の解決に向けて公正に判断することができる。	○定期試験 ○授業態度 ○提出物
主体的に学習に取り組む態度	公共に興味・関心をもち、自ら進んで授業に参加し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○授業態度 ○提出物

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

新聞やニュースで扱われている時事問題なども例に挙げ、社会を生き抜くために必要な知識を身に着けられるようサポートしていく。苦手意識をもたずに積極的に授業に参加し、理解できなかったこと、疑問点があればどんどん質問して欲しい。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
数学Ⅰ・数学A	4(数Ⅰ)+2(数A)	Iコース1学年	1学年Iコース

教科書名 新編 数学Ⅰ 新編 数学A 新編 数学Ⅱ (啓林館出版)

副教材名 基本と演習テーマ「数学Ⅰ+A」 (数研出版)

1. 科目目標

- 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な考え方(論理的思考)を身に付ける。
- 答え(結果)だけでなく、解く過程である「解答」を数字や文字を用いて表現できる能力を養う。
- 発展的・研究的内容にも取り組み、自ら気づき、学びとる姿勢(探求型学習)を身に付ける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	【数学Ⅰ】 第1章 数と式 第1節 整式(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数を実数まで拡張する意義を理解する。また、式を多面的にみたり、処理するとともに、1次不等式を事象の考察に活用する。 ・ 2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 整式とその加減 ・ 整式の乗法 ・ 因数分解 	
	5	第2節 実数(4)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実数 ・ 平方根 	
		第3節 1次不等式(5)	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次不等式 	
		1学期中間試験	
		第3章 2次関数 第1節 関数とグラフ(7)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 関数 ・ 2次関数のグラフ ・ 2次関数の決定 	
		第2節 2次関数の最大・最小(6)	
7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次関数の最大・最小 		
	第3節 2次関数と方程式・不等式(10)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2次方程式 ・ 2次関数のグラフとx軸の共有点 ・ 2次不等式とその解 		
		1学期期末試験	

<p>【課題・提出物】</p> <p>○ 問題集から出題（プリント形式による出題もある）、GW 課題など</p>
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>○ 定期試験（中間・期末の2回）の成績・・・80%</p> <p>○ 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・・・・20%</p> <p>（問題集等の課題提出状況・模擬試験や確認テスト等の成績を評価）</p>

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>【数学A】</p> <p>序章 集合（1）</p> <p>第1章 場合の数と確率</p> <p>第1節 場合の数（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集合の要素の個数 ・場合の数 <p>第2節 順列・組合せ（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順列 	<p>・集合や場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用する。</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・組合せ ・いろいろな順列 <p>第3節 確率とその基本性質（5）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象と確率 ・確率の基本性質 ・期待値 <p>第4節 いろいろな確率（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立な試行 ・反復試行 ・条件付き確率 	
	11	<p>2学期中間試験</p> <p>【数学I】</p> <p>第2章 集合と命題</p> <p>第1節 集合と命題（8）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命題と集合 ・論証 <p>【数学A】</p> <p>第2章 図形の性質</p> <p>第1節 三角形の性質（7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線と角 ・三角形の重心・外心・内心・垂心 ・チェバの定理とメネラウスの定理 	

<p>12</p>	<p>第2節 円の性質 (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 円周角 ・ 円と直線 ・ 2つの円の位置関係 <p>【数学 I】</p> <p>第4章 図形と計量</p> <p>第1節 鋭角の三角比 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角比の値 ・ 三角比の相互関係 <p>第2節 鈍角の三角形 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の三角比 ・ 三角比の相互関係 <p>第3節 図形の計量 (10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 図形の計量 <p>2学期期末試験</p> <p>【数学 I】</p> <p>第5章 データの分析</p> <p>第1節 データの整理と分析 (5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 度数分布表とヒストグラム ・ データにおける代表値 ・ 5数要約と箱ひげ図 ・ 分散と標準偏差 <p>第2節 データの相関 (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データの相関 ・ 相関係数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用する。 ・ 統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を理解する。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題集から出題 (プリント形式による出題もある) ○ 夏休み課題 		
<p>【第2学期の評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定期試験 (中間・期末の2回) の成績・・・80% ○ 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・20% <p>(問題集や夏休みの課題提出状況・確認テスト・模擬試験等を評価)</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	【数学Ⅱ】 第1章 式と証明 第1節 整式の乗法・除法と分数式（6） ・ 整式の乗法 ・ 二項定理 ・ 整式の除法 ・ 分数式とその計算 第2節 等式・不等式の証明（9） ・ 恒等式 ・ 等式の証明 ・ 不等式の証明	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の約数や倍数についての理解を深めるとともに、視点を変えた計算法からその発展的な内容にも対応できる学力を身に付ける。 ・ 整式の乗法と除法および分数式の四則計算について理解する。 ・ 等式と不等式の証明方法を、基本的な部分から理解することで、解答の作り方を学習する。 ・ 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数までに拡張した2次方程式の解法、及び因数分解を利用した高次方程式の解法を身に付ける。
	2	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式（7） ・ 複素数 ・ 2次方程式 ・ 2次方程式の解と係数の関係 第2節 因数定理と高次方程式（4） ・ 剰余の定理と因数定理 ・ 高次方程式	
	3	基礎学力到達度テストに向けた演習 3 学期期末試験 春季特別授業	
		【課題・提出物】 <input type="radio"/> 問題集から出題（プリント形式による出題もある） <input type="radio"/> 冬休み課題	
		【第3学期の評価方法】 <input type="radio"/> 定期試験（学年末の1回）の成績・・・80% <input type="radio"/> 学習態度、課題提出状況等の平常点・・・・・・・・・・20% （問題集や冬休みの課題提出状況・確認テスト・模擬試験等を評価）	
		【年間の学習状況の評価方法】 年間の成績は、学期末に各学期の成績を総合して評価する。	

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	授業の内容を理解し、活用することで問題を解くことができる。	授業態度 課題 定期試験等
思考・判断・表現	問題を読み、解き方の考察ができる。また、授業で得た知識を活用し、解答を表現することができる。	授業態度 課題 定期試験等
主体的に学習に取り組む態度	数学に興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することができる。	授業態度 課題

4. 学習サポート

<授業について>

① 授業の形態

授業は、学習内容に合わせて習熟度クラス編成で行う。

② iPad の利用

iPad を利用した授業を展開する。

③ 学び合い【アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）】

授業中に、演習の時間も設けるので、積極的に「学び合い」を行う。分からないところを友人や教員に質問し（問題解決に向けた主体的・対話的な学び）、自分が分かったのであれば、友人に教えると（対話的で深い学び）、より内容の定着度が上がる。

<宿題について>

授業進度に合わせて、宿題を配布する。授業内容の確認や定着を図るためには、自ら考えて「やってみる」ことが大切である。解らない箇所をそのままにすることなく、友人や教員に相談や質問を通して早めに解決できるようにしてほしい。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
物理基礎	2	1年	I・IIコース

教科書名 物理基礎 (東京書籍)

副教材名 ニューアチーブ物理基礎 (東京書籍)

1. 科目目標

1. 物理に対しての興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
 2. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。
 3. 物理の学習を通じて、主体的に学ぶ姿勢と、他者と協働して学習する態度を身に付ける。
- 学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。
- また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切にし、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	物理量の測定と扱い方 速度・加速度	<ul style="list-style-type: none"> ・有効数字を考慮した数値の表し方を学ぶ。 ・直線運動における変位，速度，加速度などの運動の表し方を理解する。
	5	1 速さと等速直線運動 2 直線運動の加速度 3 落体の運動	<ul style="list-style-type: none"> ・直線上を運動する物体の加速度について理解し，グラフや式を使って物体の運動を分析する。
	6	さまざまな力とそのはたらき 1 力とつり合い 2 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> ・物体が空中を落下する際の運動の特徴について理解し，鉛直方向の落下運動の式が扱える。 ・物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身につけるとともに，それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。 ・作用反作用の法則を理解する。 ・慣性の法則，運動の法則について理解し，物体にはたらく力と運動との関係を分析する。
【課題・提出物】 ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎			
【1学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性			
	月	学習内容	学習のねらい
	9	3 さまざまな運動とはたらく力 力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・連結，押し合う2物体の運動を考える。 ・摩擦力を受ける物体の運動について学ぶ。

2 学 期	10	1 仕事 2 運動エネルギーと位置エネルギー 3 力学的エネルギーの保存	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーを測るものさしとしての仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。 ・仕事をする能力としての運動エネルギーと位置エネルギーの表し方について理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則とその適用条件について、仕事と関連付けて理解を深める。 ・熱の正体、温度目盛りについて理解する。 ・熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。 ・仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第一法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解する。 ・熱機関とその熱効率及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。 ・波の伝わり方について理解する。 ・波の基本的な性質を理解し、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。
	11	熱 1 熱と温度 2 熱の利用	
	12		
		波 1 波の性質	
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 ・夏期休業中課題 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力学的エネルギーの実験 ・ブラウン運動の観察 ・縦波と横波の観察 <p>【2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 平常点は以下の項目などにより評価する。 ○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○夏季課題</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 音と振動	<ul style="list-style-type: none"> ・波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・音波の性質として、うなり、固有振動、共振、共鳴などを学び、楽器の原理について理解する
	3	電気と磁気 エネルギーと利用	<ul style="list-style-type: none"> ・電気と磁気の基礎を学ぶ。 ・さまざまなエネルギーについて学ぶ。
<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認テストおよび AL リフレクションシート ・ニューアチーブ物理基礎 <p>【実験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の波形の観察 			

<p>【3学期の評価方法】</p> <p>定期試験（80％） 平常点（20％） 平常点は以下の項目などにより評価する。</p> <p>○ニューアチーブ物理の取り組み ○授業に対する意欲・積極性</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点</p> <p>平常点は以下の項目などにより評価する。</p> <p>○ニューアチーブ物理基礎の取り組み ○授業に対する意欲・積極性 ○長期休業中課題への取り組み</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	物理量や物理の現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	定期考査 確認テスト
思考・判断・表現	様々な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	グループワークにおける活動 定期試験
主体的に学習に取り組む態度	学習活動に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	学習活動における態度、 振り返りシート

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度を身につけましょう。
 2. 物理法則の導出過程を大切にし、論理的な思考力を高めよう。
 3. クループ活動・討論をしながら、学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。
 4. 繰り返し演習に取り組み、徹底して基礎を定着させましょう。
- <定期試験に向けて>
1. 演習プリントで基礎の確認。（教科書、授業プリントの見直しや解き直し）
 2. ニューアチーブ物理基礎を2～3周し、理解を深めましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化学基礎	2	1	Iコース・IIコース

教科書名 化学基礎 academia (実教出版)

副教材名 新インプレス化学基礎ノート (浜島書店)

1 科目目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1章 物質の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 ・構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 ・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。 ・イオン結合およびイオン結合からなる結晶の性質を理解する。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、配位結合の仕方も学習する。
		1節 物質の探究	
		1 物質の分離と精製	
		2 物質と元素	
	5	2節 物質の構成粒子	
		1 原子の構造	
		2 イオンの生成	
	6	3 周期表	
		2章 物質と化学結合	
		1節 イオン結合	
1 イオン結合とイオン結晶			
2節 共有結合と分子間力			
7	1 共有結合		
	2 分子間力		
	3 共有結合からなる物質		
		【課題・提出物】 <ol style="list-style-type: none"> (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 各定期テストの該当範囲を解答した新インプレス化学基礎ノート (4) 夏期休業中の課題レポート 	

<p>【1学期の評価方法】</p> <p>(1) 定期試験の成績(80%)</p> <p>① 知識・理解の確認とともに、実験について問う記述式問題も出題する。</p> <p>(2) 学習態度等の平常点(20%)</p> <p>① 授業時の学習過程で、評価の観点の3項目について評価する。</p> <p>② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。</p>			
月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<p>3節 金属結合</p> <p>1 金属結合</p> <p>4節 化学結合と物質</p> <p>1 物質の分類</p>	<p>・金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。</p> <p>・1～3節において学んだ物質の結晶を、結合の違いによって区別し、性質を整理する。具体的な物質について、それぞれ性質や利用例を理解する。</p>
	10	<p>3章 物質の変化</p> <p>1節 物質と化学反応式</p> <p>1 物質と分子量・式量</p> <p>2 物質</p>	<p>・原子量・分子量・式量などの物質の基本事項を学習する。</p> <p>・物質の基本的計算方法について身に付ける。</p>
	11	<p>3 溶液の濃度</p> <p>4 化学反応式</p> <p>A 化学変化と化学反応式</p> <p>B 化学変化と量的関係</p> <p>参考 基本法則に関連した化学史</p>	<p>・溶液の濃度について計算できるようになる。</p> <p>・化学反応式の表し方について学習する。</p> <p>・化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。</p> <p>・化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。</p>
	12	<p>2節 酸と塩基</p> <p>1 酸と塩基</p>	<p>・水溶液の酸性・塩基性の強弱と電離度との関係について理解する。</p>
<p>【課題・提出物】</p> <p>(1) 授業中に配布する演習プリント</p> <p>(2) 授業ノート</p> <p>(3) 夏季休業中の課題</p> <p>(4) 各定期テストの該当範囲を解答した新インプレス化学基礎ノート</p>			
<p>【2学期の評価方法】</p> <p>(1) 定期試験の成績(80%)</p> <p>① 知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。</p> <p>(2) 学習態度等の平常点(20%)</p> <p>① 授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。</p> <p>② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	2 水素イオン濃度と pH	<ul style="list-style-type: none"> 水素イオン濃度と pH の関係性について理解する。 pH の計算について学習する。
	2	3 中和反応と塩の生成	<ul style="list-style-type: none"> 中和反応の係数を用い、酸、塩基のモル濃度と体積を求められるようにする。
	3	4 中和滴定	<ul style="list-style-type: none"> 中和滴定(中和反応の実験)で使用する器具や操作について学習する。 滴定曲線(実験から得られるグラフ)の種類について学習する。
【課題・提出物】 (1) 授業中に配布する演習プリント (2) 授業ノート (3) 冬季休業中の課題 (4) 定期テストの該当範囲を解答したインプレス化学基礎ノート			
【3学期の評価方法】 (1) 定期試験の成績(80%) ① 知識・理解の確認とともに、化学的思考を問う問題も出題する。 (2) 学習態度等の平常点(20%) ① 授業時の学習過程で評価の観点の3項目について評価する。 ② 課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。			
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績と平常点を総合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探求する基礎を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 授業ノート 定期テスト 小テスト 課題レポート
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化の中に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 授業ノート 演習プリント 定期テスト 課題レポート

主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会との関連を図りながら物質とそ の変化について関心をもち、意欲的にそれらを探 究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を 身につけている。	・授業時の様子 ・授業ノート ・演習プリント ・課題レポート
---------------	---	---

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時、学習相談を実施しています。つまづいている箇所があれば早めに質問して下さい。対面に加えてロイロノートを利用した学習相談もできます。 ・ 化学は理系科目の土台になる科目です。2年次以降に化学を選択しない生徒にも共通する範囲がありますので、一生懸命に取り組みましょう。 |
|---|

科目	単位数	対象学年	対象クラス
生物基礎	2	1 学年	I・IIコース

教科書名 生物基礎（数研出版）

副教材名 スクエア最新図説生物（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社）

スタディアップノート生物基礎（数研出版）

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを知る。

2. 学力をつける

日本大学基礎学力到達度テスト、大学入学共通テストに対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 生物の特徴	第1章 生物の特徴 生物は多様であること、多様な生物にも細胞構造をもつなど共通性があること、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを学習する。さらに、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。
		第1章 生物の特徴	
	5	1. 生物の多様性と共通性	
		2. エネルギーと代謝	
	5	1 学期中間試験	
		3. 呼吸と光合成	
6	第2章 遺伝子とそのはたらき	第2章 遺伝子とそのはたらき 遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報について理解する。また、転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。さらに、遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞では異なる遺伝子が発現していることを理解する。	
	1. 遺伝情報と DNA		
	2. 遺伝情報の複製と分配		
		3. 遺伝情報の発現	
		1 学期期末試験	

1 学 期	【課題・提出物】
	・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する
1 学 期	【第1学期の評価方法】
	・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）

月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持	第3章 生物の体内環境 多細胞動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境（体内環境）である。体内環境が一定に保たれているしくみや調節方法について学ぶ。また、循環系、腎臓、肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫について学習する。
9	1. 体内での情報伝達と調節	
10	2. 体内環境の維持のしくみ 2学期中間試験	
11	3. 免疫のはたらき 2学期期末試験	
【課題・提出物】		
・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答しえ、提出する		
【第2学期の評価方法】		
・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）		

月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と生態系	第4章 植生の多様性と生態系 植生について、その構造や遷移のしくみについて学習する。さらに、地球上にはさまざまなバイオームが見られ、バイオームの分布は、気温と降水量によって決まることを理解する。また、生態系の成り立ち、生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。その上で、生態系はそのバランスが保たれていることを理解する。
12	1. 植生と遷移	
1	2. 植生の分布とバイオーム	
2	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全 3学期期末試験	
【課題・提出物】		
・ 定期試験ごとにセミナー生物基礎の指定された問題を解答して、提出する		
【第3学期の評価方法】		
・ 定期試験の成績（80%） ・ 学習態度及び提出物（20%）		
【年間の学習状況の評価方法】		
・ 年間の成績は、学年末に各学期の成績を総合して評価する		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出すことができる。 生命現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を化学的にとらえられる。 科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出し、それを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	<ul style="list-style-type: none"> 授業時の様子 提出物

4. 学習サポート

<ul style="list-style-type: none"> 随時、学習相談を実施しています。 授業内容と問題集の橋渡しとして、單元ごとに授業プリントを用いた演習を行います。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	2	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート ・ステップアップ高校スポーツ（大修館書店）

1 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<p>集団行動</p> <p>①集合・隊形</p> <p>②方向変換・列の増減</p> <p>体づくり運動・体育理論（通年で行う）</p> <p>(1) 体づくり運動</p> <p>①体ほぐしの運動</p> <p>②実生活に生かす運動の計画</p> <p>(2) 体育理論</p> <p>スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次）</p> <p>運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次）</p> <p>豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次）</p> <p>陸上競技〔走〕ア競争</p> <p>①短距離走</p> <p>②持久走</p>	<p>・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できるようにする。</p> <p>①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。</p> <p>②健康に生活をするための体力の向上，運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。</p> <p>・以下4項目に関し，体育実技の実施と関連させながら学習する。</p> <p>①スポーツの歴史的発展と多様な文化</p> <p>②現代スポーツの意義や価値</p> <p>③スポーツの経済的効果と高潔さ</p> <p>④スポーツが環境や社会にもたらす影響</p> <p>・中学校までの学習を踏まえて，記録の向上や競争の楽しさを味わう。</p> <p>・ルールマナーを大切にし，役割を積極的に引き受け，自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。</p> <p>・毎年継続して記録する，スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。</p>
	5	<p>スポーツテスト（新体力テスト）</p> <p>種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p>	<p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ，生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p>

1 学 期	6	バレーボール (男子) ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等 ②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ ③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 (直上パス・対人パス) オーバーハンド・アンダーハンド (サービス) アンダーハンド・フローター等 (レシーブ) サブレシーブ・スパイクレシー ブ (スパイク) オープン・クイック	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられるようにする。 ・ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことを目指す。 ・役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開できる力をつける。 ・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。
	7	バレーボール (女子) ①オリエンテーション 整列指導・規律訓練 指導計画・ルール等 ②ボール慣れ・バレーボールを楽しむ ③個人技術の習得 個人・集団の技能修得内容 直上パス・対人パス オーバーハンド・アンダーハンド サービス アンダーハンド・フローター等 レシーブ サブレシーブ・スパイクレシー ブ・ゲーム ※体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と連携して、ネット型スポーツの基本的動作を習得し、攻防を展開できる力をつける。 ・ボールを落とさず、ラリーを続ける楽しさが感じられることを目指す。 ・基本技術のパス・レシーブの習得に重点を置き、ラリーが続けられるようにする。 ・サーブ・レシーブ・スパイク等の練習を通じて、各種の技術を取得するとともにルールを理解し、仲間と協力してゲームが展開できるようにする。
【課題・提出物】なし			
【1学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) バレーボール (男子) ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス・スパイク等の実技試験。 ・ルールを理解し、試合を進めることができるか。 バレーボール (女子) ・オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・サービス等の実技試験。 ・ルールを理解し、試合を進める事ができるか。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。			
月	学習内容	学習のねらい	
9	スポーツテスト(新体力テスト)	・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を	

2 学 期	10	種目：握力・上体起こし・長座体前屈・ 反復横とび・持久走・50m走・立ち幅 跳び・ハンドボール投げ	身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。 ・休まずに決められた距離・時間を自分のペースで走 ることができるようにする。
		陸上競技（長距離走）	・比較的長い距離を決められた時間内でゴールするこ とができるようにし、記録の向上を目指す。
		①ジョギング	
		②持久走	
		※水泳（男子）	※施設や状況を踏まえ、実施予定。 ・四泳法及び安全の確保の方法を身に付ける。
		サッカー（男子）	
		①キック	・仲間と連携してゴール型スポーツの基本的動作を習 得し、攻防を展開できる力をつける。 （インステップキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （インサイドキック） 自分の狙った場所にボールを蹴る。 （リフティング） ボールを落とさずに蹴り続けることができる。自分 の蹴りやすい場所にボールを置くことができる。
		・インステップキック	
		・インサイドキック	
		・リフティング	
②コントロール	・エッジコントロール・クッションコントロール		
グラウンダーのボール、浮き球	・胸、正確なボールタッチで速くボールを運ぶことが できる。		
③ドリブル	・落ちていてフェイントの技術を発揮することができる。		
④フェイント	・攻撃・守備の基本的な原則を理解し実践することが できる。		
フェイントシザース	・プレイの開始、ファウル、不正行為、オフサイド、 スローイン、ゴールキック、コーナーキックなどのル ールを理解してゲームに取り組むことができるように する。		
ボディフェイント			
⑤ゲーム			
⑥ルール理解			
10	ダンス（女子）		
①ウォーミングアップ	・仲間と連携してダンス（課題）・リズムの特徴を捉 え、変化とまとまりを付けて踊ることができる。		
ストレッチ・クーリングダウン			
11	②現代的なリズムのダンス（振り写し）	①各動作の特徴を正確にとらえ、表現することができ るようにする。	
ヒップホップ・エアロビクスなど			
③発表	②音楽に合わせて表現したい内容を踊り、楽しむ。		
12	器械体操・卓球（男子）	③作品に変化とまとまりを付けて発表をする。	
	（器械体操）		

2 学 期	12	①マット運動回転系・接点技群 ②マット運動回転系・翻転技群 (卓球) ①グリップ 用具の扱い方 ②ストローク <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">バスケットボール (女子)</div> 基本動作 ※体育理論	・技の名称や行い方，体力の高め方，課題解決の方法を理解するとともに，基本的な技を滑らかに安定して行うことができるようにする。 ・仲間と連携して，ネット型スポーツの基本的動作を習得し，攻防を展開できる力をつける。 ・用具の操作について理解をする。 フォアハンド・バックハンドの正しいフォームを習得し，ラケットの中央でボールを捉えられるようにする。 ・仲間と連携して，ゴール型スポーツの基本的動作を習得し，攻防を展開できる力をつける。 ・ルールや基本動作を理解・実践する。
	【課題・提出物】なし 【第2学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) スポーツテスト サッカー (男子) ・インステップキック，インサイドキック，リフティングなどの実技試験。 ・ルールを理解し，試合を進める事ができるか。 ダンス (女子) ・振りを的確に覚え，表現することが出来るか。(個人・集団) ・ダンスの特性に関心を持ち，楽しさや喜びをあじわえるよう進んで取り組もうとしているか。 ・互いの良さを認め合い，協力して練習及び創作・発表に取り組んでいるか。 陸上競技 (長距離走) ・積極的に練習に取り組んでいるか。 ・個々の能力に応じた記録の向上がみられたか。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) ・積極的に授業へ参加し，準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。		
	月	学習内容	学習のねらい
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">器械体操・卓球 (男子)</div> (器械体操) ①マット運動回転系・接点技群 ②マット運動回転系・翻転技群 ③連続技	・回転系接点技群と翻転技群の基本的な技を滑らかに安定して行うこと，条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技することができるようにする。
	2	(卓球) ①グリップ ②ストローク	・サーブ時のルールを理解させ，ロング，ショートサーブを使い分けるようにする。 ・基本的なルールを理解する。

3 学 期	③サーブ ④ルール ⑤ラリーの組み立て方 バスケットボール (女子) ①ハンドリング ②レグスルー ③シュート セットシュート レイアップシュート ④ドリブル各種 ⑤パス各種 ⑥ゲーム・ルール ※体育理論	ツツキ、ドライブなどの球種を理解しゲームの中の攻防に組み入れることができるようにする。 卓球の特性であるリズム感を習得し、ラリーを続けることができるようにする。 ・手、指でボールを扱うことができる。 ・ボールを両手、片手、左右で自在に操ることが出来る。パス、ドリブル、シュートの感覚を身に付ける。 ・レイアップシュート、ゴール下シュートができるようにする。 攻撃・守備の基本を理解し、基本的な技術を身につけ、ミニゲームで実践することができるようにする。
	【課題・提出物】なし	
	【第3学期の評価方法】 ①実技試験 (60%) 器械体操 (男子) ・身につけた技を構成して演技し評価する。 ・自己の課題に応じた練習を行い、新しい技へ挑戦したり、健康・安全を確保したりしている。 卓球 (男子) ・サーブ、スマッシュ等の試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 バスケットボール (女子) ・ドリブル・シュートの試験による評価。 ・ルールを理解し、試合を進めることができる。 ・道具の準備や片付けを協力しながら積極的にできる。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点 (40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。	
【年間の学習状況の評価方法】 学年末評定 (評価) は1学期・2学期・3学期の実技の平均 (60%) 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況・(40%) 知識・技能, 思考・判断・表現, 主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	運動の合理的, 計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに, 目的に応じた技能を身に付けている。	実技テスト 確認テスト 記録

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動技術（技）の名称や試合を進めるためのルールを学ぶ姿勢がある。 2. 各運動の特性に応じて段階的な技能を身につけており、ゲームに生かすことができる。 3. 各運動の特性に応じて勝敗を競い、攻防を展開できる技能を有する。 4. ミニゲームの審判を務めることができる。 	観察
思考・判断・表現	<p>自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それを他者に伝えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己や仲間の状況に応じて体力を高める運動を継続するための取り組みを工夫し、伝えようとしている。 2. 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。 	記録 観察
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席が少なく、授業への参加態度が良好である。 2. 健康・安全に配慮した服装で参加をし、学習に主体的に取り組もうとする態度で臨んでいる。 3. 多様性を理解し仲間と協力することができる。 	記録 観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
保健	1	1	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育（大修館書店）

副教材名 現代高等保健体育ノート（大修館書店）

1 科目目標

健康・安全について理解を深めるようにし、自らの健康に興味を持ち、適切に管理し改善していくための資質・能力を育成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	1 単元 現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな健康の考え方について理解する。 ・健康を成り立たせている要因を理解する。 ・わが国の健康水準の変化とその背景について理解する。 ・わが国の現在の健康問題について理解する。 ・生活習慣病の種類と要因について理解する。 ・生活習慣病の一次予防、二次予防について理解する。 ・がんの種類や原因について理解する。 ・がんの一次予防と二次予防について理解する。 ・がんのおもな治療法や緩和ケアについて理解する。 ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について理解する。 ・健康と運動の関係について理解する。 ・目的に応じた健康的な運動のしかたを身につける。 ・食事と健康の関係について理解する。 ・健康的な食事のとり方について理解し、身につける。 ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について理解する。 ・健康と睡眠の関係及び健康によい睡眠のとり方について理解する。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について理解する。 ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげ、説明することができる。 ・飲酒による健康への短期的影響と長期的影響について理解する。 ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響に
		2 私たちの健康のすがた	
		3 生活習慣病の予防と回復	
		4 がんの原因と予防	
		5 がんの治療と回復	
	5	6 運動と健康	
		7 食事と健康	
		8 休養・睡眠と健康	
	6	9 喫煙と健康	
		7	10 飲酒と健康
			11 薬物乱用と健康

			<ul style="list-style-type: none"> ついて理解する。 ・薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策について例をあげ、説明することができる。 	
		【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート		
		【1 学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）		
	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	12 精神疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の例をあげ、発病の要因とおもな症状について理解する。 ・現代社会における精神保健の課題をあげることができる。 	
	10	13 精神疾患の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を予防する方法について理解する。 ・精神疾患の治療について理解する。 	
		14 精神疾患からの回復	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症とは何かについて潜伏期間や感染力なども含めて例をあげることができる。 	
		15 現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ理解する。 	
	11	16 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防対策について3原則を理解し、例を挙げることができる。 ・感染症への個人と社会の対策について理解し、例をあげて説明できる。 	
		17 性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について理解する。 ・性感染症・エイズの予防とその対策について個人と社会に分けて例をあげることができる。 	
	12	18 健康に関する意思決定・行動選択	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定・行動選択に影響を与える要因について理解する。 	
		19 健康に関する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・社会環境の健康への影響について理解する。 ・ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について理解する。 	
			【課題・提出物】 ○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート	
			【2 学期の評価方法】 ○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）	
	月	学習内容	学習のねらい	
3 学 期	1	2 単元 安全な社会生活	<ul style="list-style-type: none"> ・事故の実態と被害の実態について理解する。 ・事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることについて例をあげて理解する。 	
		1 事故の現状と発生要因		
	2	2 安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・安全のために必要な個人の行動について理解する。 	

3	3 交通における安全	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて理解する。 ・交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について理解する。 ・交通事故における責任を3つに分け理解する。 ・応急手当の意義について理解する。 ・傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントを身につけ、実践できる。 ・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について身につけ、実践できる。 ・実際に、日常的なけがや熱中症の応急手当の仕方を身につける。 ・心肺蘇生法の方法と手順について理解する。 ・実際に、心肺蘇生法の仕方を身につける。
	4 応急手当の意義とその基本	
	5 日常的な応急手当	
	6 心肺蘇生法	
【課題・提出物】○保健ノート ○授業プリント ○課題レポート		
【3学期の評価方法】○定期試験 ○平常点（保健ノート、プリント、レポートなどの提出状況）		
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>100点法にて評価（試験・平常点で総合評価する）</p> <p>(1) 各学期評価【試験における素点の80%+平常点20%にて評価】各学期、年度末とも</p> <p>(2) 年度末評価【(1学期素点+2学期素点+3学期素点)÷3+年間平常点にて評価】</p> <p>(3) 平常点の算出</p> <p>授業に対する取り組み、小テスト、動画視聴、まとめレポート等で算出。</p> <p>知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度等の観点を含め総合的に評価する。</p>		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ペーパー試験において、事実に知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題をバランスよく出題する。 ○授業中に知識や技能を用いる場面を設定する。実習や体験（応急手当や心肺蘇生など）を行う。 	定期試験 豆テスト 観察
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○論述やレポートの作成、発表。グループでの話し合いなどを行う。 	レポート 観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやレポートによる記述 ○授業中の発言 ○自己評価 	観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

質問に関しては、随時教科担当者が対応する。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
音楽 I	2	1 学年音楽選択者	全クラス

教科書名 高校音楽 I Tutti+ (教育出版)

1 科目目標

- (1) 歌唱を通して、曲種に応じた発声や曲想を工夫し表現する技能を高める。
- (2) 器楽演奏を通して、楽器奏法や視奏力を身につけ、合奏の楽しさを味わう。
- (3) 時代や地域に基づく音楽文化について、理解を深めるとともに、主体的に鑑賞し根拠をもって自分なりに思考・判断することのできる言語表現力を養う。
- (4) 音楽の組み立て方を学び、創作の技能を身につける。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○校歌・学生歌・応援歌の歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽曲の特徴や歴史的背景を理解し、意欲的に活動する。 ・ 作品に合った発声を習得する。 ・ 音楽史を理解する。 ・ 多角的な観点から学びを深める。
	5	○日本歌曲や西洋歌曲の歌唱 (イタリア・ドイツ歌曲)	
	6	○日本及び世界各国の音楽的特徴・特色の理解 ○他の芸術と音楽の結びつきを学ぶ	
	7	○合唱曲の歌唱 ○ボディーパーカッションやヴォイスアンサンブルを通したリズムの理解、グループ演奏	
【課題・提出物】ワークシート			
【1学期の評価方法】			
・歌唱実技テスト			
・平常の取り組み (ワークシート・鑑賞の記録等)			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○ミュージカルの鑑賞と歌唱	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の様式を理解する。 ・ 曲想を工夫し、表現する。 ・ 正しい奏法を体得する。 ・ コードを用いて弾き語りをする。 ・ 楽曲特有の特徴や歌唱法を理解し、表現の工夫をする。 ・ 様々な楽器の特性を理解する。
		○洋楽の理解と歌唱	
	10	○ギター奏法の習得 ○コードについての理解	
	11	○欧米、民族の音楽の理解 ○オペラの鑑賞 ○映画音楽の歌唱	
	12	○日本の楽器やオーケストラの楽器の理解	

		○ハンドベル演奏 ○ゴスペル曲の歌唱	・他者と協調し、合奏する。 ・様式を理解し、表現する。
	【課題・提出物】ワークシート		
	【2学期の評価方法】 ・ギター実技テスト ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	○日本音楽（伝統音楽・ポピュラー音楽）の理解 ○音楽の仕組み、構成要素、楽典の理解	・伝統音楽における構造を理解する。 ・作品を通して、基本的な楽典を理解する。
	2	○シャンソンの歌唱 ○自由発表	・楽曲特有の発音、歌唱法を理解し、表現の工夫をする。 ・各自が主体的に創意工夫をし、演奏や作品発表をする。
	3		
	【課題・提出物】ワークシート		
	【3学期の評価方法】 ・自由発表 ・平常の取り組み（ワークシート・鑑賞の記録等）		
【年間の学習状況の評価方法】 ○平常点 20%、実技点 80% ※各定期試験は実施しない。 ○学年末評価は三学期評価を算出の上、各学期の平均として行う。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解し演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・ワークシート提出
思考・判断・表現	曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージをもって演奏や鑑賞ができる。 曲種に応じた発声や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏ができる。	・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出
主体的に学習に取り組む態度	音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏や鑑賞ができる。	・歌唱 ・器楽演奏 ・ワークシート提出

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜の読み方、リズムや音程の取り方、楽器の奏法などの個別指導も行う。 ・休み時間なども相談を受け付ける。 ・音楽系大学や音楽教育分野などの進路指導にも対応する。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
美術 I	2	1 学年美術選択者	全クラス

教科書名 高校生の美術 1 (日本文教出版)

副教材 実習に必要な材料・用具(年度初めに用意)

1. 科目目標

- (1) 幅広い制作活動を通して、造形的な表現への興味や関心を高めるとともに具体的に表現するための技能や知識を習得する。
- (2) 社会の造形的な文化活動について理解を深めるとともに、社会参加のために将来必要となる資質や能力を高める。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	◎「ドローイング」	<ul style="list-style-type: none"> 透視図的な物の見方やハッチングなど描画を体験し、空間認識力を高める。 材料や道具の基本的な性質を理解し、限られた条件で表現する柔軟性や巧緻性を養う。 自己分析シートを活用し、自己評価力を高める。
	5	: 線描写を用いて空間を表現する	
	6	◎「高さに挑戦」	
	7	: 紙工作でより高い造形物を作る	
【課題・提出物】			
・作品 8 枚			
【1 学期の評価方法】			
・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点			
・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点 (発想・構想 各 5 点)・(創造的技能 各 5 点)×8 作品			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	◎「ゾートロープ」	<ul style="list-style-type: none"> 動画原理の学習からアニメーションへの関心を抱く。 動画作品を鑑賞する人に、表現者の意図が伝わる喜びを味わい、表現目的や造形文化について考える。 立体的な想像力を高め、空間認識力を育成する。 混色や重色などについて理解し、配色の効果についての思考力、表現力を高める。 これまでの多様な学習内容を活かして想像を膨らませ、発想力や構想力を育む。
	10	: アニメーションの学習	
	11	◎「空想の生物と図鑑の制作」	
	12	: 塑像による立体表現と 着彩による色彩効果の学習	
【課題・提出物】			
・作品(立体作品、ゾートロープ)			
【2 学期の評価方法】			
・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20 点			
・技能点：作品やアイデアスケッチから授業理解や表現力を評価 80 点			

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	◎「光で楽しむ半立体作品」 ：切り抜いた画用紙を重ね、 画面に凹凸のある表現をす る	<ul style="list-style-type: none"> ・主題に応じた教材の使い方を工夫し発想力や活用力、表現力を育む。 ・紙の重なりと陰影の効果を考えながら表現し計画力や構想力を高める。 ・試行錯誤しながらイメージを実現するための思考力や判断力を高める。 ・生徒間で表現意図や効果を共有し造形的な知的活動を楽しみ、共感性や協調性、人間関係力を育成する。
	2		
	3		
【課題・提出物】			
<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・課題プリント(任意) 			
【3学期の評価方法】			
<ul style="list-style-type: none"> ・平常点：出席数、授業態度、作品の提出率など 20点 ・技能点：作品(発想・構想 各40点)・(創造的技能 各40点) 80点 			
【年間の学習状況の評価方法】			
生徒の状況をふまえ、作品を通して総合的に評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・画材の特性を効果的に利用することができる。 ・各単元で習得した内容を活用、応用できる。 	表現活動の観察 作品(習作含む)
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を的確に捉え、問題解決を図ることができる。 ・情報を整理し、表現の為のアイデアを練ることができる。 	資料プリント等での スケッチ、構成 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された課題に興味をもち、積極性や集中力を発して表現の可能性を追求することができる。 ・表現方法を工夫しながら丁寧に制作できる。 ・表現活動を通じて、周囲の状況に配慮しながら協力して制作できる。 ・完成度を高めながら造形の美しさや創造の楽しさを自分なりに発見し、そのよさを味わえる。 ・表現体験と鑑賞活動を通して自己評価できる。 	学習活動の観察 発言

4. 学習サポート(事前・事後学習等について)

<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状況や必要に応じて、準備物や予習のための資料プリントを配布する。 ・課外で「放課後アートタイム」を設け、生徒が主体的に学習補完できるようにする。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
書道 I	2	1 学年書道選択者	全クラス

教科書名 _____ 書 I _____ (光村図書)

1 科目目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広くかかわる資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫し、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	書写から書道へ	<ul style="list-style-type: none"> ・書写と書道の学習の違いを確認する。 ・芸術科書道への関心・意欲を高め、書に対する感性を豊かにし、書に親しむ情操を養う。 ・用具用材の扱い方を学ぶ。 ・基本点画の用筆・運筆を身に付ける。 ・古典と現代の書を学び、それぞれの書の特徴を捉え臨書する。
	5	漢字の変遷と様々な書体	
	6	文房四宝	
	7		
		唐の四大家に学ぶ楷書の基本 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑	
		【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出	
		【1 学期の評価方法】作品提出による実技点 80%、及び平常点 20%	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の基本的特徴を学ぶ。 ・王羲之や三筆・三跡等の歴史や作品が書かれた背景を理解する。 ・蘭亭序を学び模範的な行書を臨書する。 ・風信帖に学び古典筆跡の鑑賞と理解を深める。 ・仮名の成立までの過程を理解する。 ・仮名文字の線質、書風、用筆等を理解し身
	10	風信帖 三筆・三跡	
	11	仮名の筆使い 平仮名	

	12	変体仮名	に付ける。 ・平仮名、変体仮名の字源を意識し書く。 ・古筆を鑑賞し美しさを味わう。 ・正しいはがき等の書き方を身に付ける。
		高野切	
		蓬莱切	
		はがき・手紙の書き方	
【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出			
【2学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	漢字仮名交じりの書	・用具や表現法の効果を理解する。
	2		・学んだことを用いて書きたい思いを言葉にして
	3		作品として仕上げ創造力や表現力を育成する。 ・他者の作品を鑑賞し感受性を磨く。
	【課題・提出物】鑑賞プリント 作品提出		
【3学期の評価方法】作品提出による実技点80%、及び平常点20%			
【年間の学習状況の評価方法】 実技点80%、及び平常点20% ※各定期試験は実施しない。 学年末評価は、3学期評価を算出の上、各学期の平均となる。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を習得できる。 ・古典作品の書家や時代背景を理解できる。 	学習活動の観察 作品
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や用途の即した形式、意図に基づく表現を工夫できる。 ・他者の作品を鑑賞し表現の工夫点や自己との相違点を見つけ、作品に生かすことができる。 	授業内プリント 学習活動の観察
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を適切に扱うことができる。 ・集中して取り組み、技術の向上に努めることができる。 ・話し合いに積極的に参加できる。 ・古典作品や生徒同士の作品を興味と関心をもって鑑賞できる。 	授業内プリント 学習活動の観察

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

授業内・授業後に添削指導を行う。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語コミュニケーション I	4	1	I コース

教科書名 BIG DIPPER English Communication I (数研出版)

副教材名 BIG DIPPER English Communication I ベーシックノート (数研出版)

英単語ターゲット 1200 (旺文社)

Pair & Share I (リピトレ版) (いっずな書店)

大学入試 4 技能試験対応 基礎力養成コア表現トレーニング (旺文社)

1. 科目目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Lesson1 Have a Good Day with a Good Breakfast 朝食の大切さ、理想的な朝食	・英語の時制(現在形, 過去形, 未来を表す形, 現在完了形)を理解する。
	5	Lesson2 A Mascot with a Mission 町おこしのキャラクターの役割	・第2文型, 第3文型を理解する。 ・不定詞の名詞的用法, 形容詞的用法, 副詞的用法と動名詞を理解する。
《1学期中間試験》			
6	6	Lesson3 Two kinds of Leadership サルとゴリラから見える2つのタイプのリーダーシップ	・受動態(be 動詞+過去分詞)を理解する。 ・関係代名詞を理解する。 ・第4文型, 第5文型を理解する。
		Lesson4 Older Sports and Newer Sports 新旧いろいろなスポーツの歴史と魅力	・最上級(the+最上級)を理解する。 ・比較級(比較級+than~)を理解する。 ・原級(as+原級+as~)を理解する。
《1学期期末試験》			
【課題・提出物】 ・ベーシックノート ・単語テスト			
【1学期の評価方法】 定期試験素点：80% (中間試験及び期末試験) 平常点：20% (課題提出, 単語テスト, 授業態度)			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Lesson5 AI Meets the Arts 芸術の世界にまで進出する AI Lesson6 What Is Happiness? 世界の人々の「幸福度」の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・現在分詞, 過去分詞を理解する。 ・形式主語構文を理解する。 ・過去完了形を理解する。 ・関係副詞(when・where)を理解する。
	10	【Pair&Share I】 Lesson7~9 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson18~23	
	《2 学期中間試験》		
	11	Lesson7 The Maldives: A Dream Destination? 人気の観光地が抱える問題 Lesson8 Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream 世界的な特殊メイクアップアーティスト Kazu Hiro	<ul style="list-style-type: none"> ・原型不定詞を理解する。 ・SVO + to-不定詞を理解する。 ・SVO + 現在分詞を理解する。 ・関係副詞(how・why)を理解する。 ・関係代名詞(what)を理解する。 ・強調構文(It is ~ that)を理解する。
	12	【Pair&Share I】 Lesson10~13 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson24~29	
	《2 学期期末試験》		
【課題・提出物】 ・夏期休業期間中の課題 ・ベーシックノート ・単語テスト			
【2 学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	Lesson9 From Recycle to Upcycle ゴミの再利用の新しい形「アップサイクル」	<ul style="list-style-type: none"> ・つなぎ表現を理解する。 ・分詞構文を理解する。 ・間接疑問文を理解する。 ・現在完了進行形(have been ~ing)を理解する。
	2	Lesson10 Diversity at Japanese Companies 日本の会社における雇用の多様性	<ul style="list-style-type: none"> ・仮定法過去を理解する。 ・分詞構文を理解する。 ・過去の習慣を表す助動詞(would)を理解する。 ・助動詞+be+過去分詞を理解する。

	【Pair&Share I】 Lesson14~18 【基礎力養成コア表現トレーニング】 Lesson30~43	
《3 学期期末試験》		
【課題・提出物】	・冬期休業期間中の課題 ・ベーシックノート ・単語テスト	
【3 学期の評価方法】	定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，単語テスト，授業態度）	
【年間の学習状況の評価方法】	定期試験素点：80%（5 回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）	

3. 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	・授業内容を正確に理解し，日本語訳に頼らず，本文の理解ができる。 ・英単語の意味や綴りを正確に理解している。	定期試験 単語テスト
思考・判断・表現	・各単元のトピックに関して，自ら考え，自分の意見を持ち，それを自ら表現している。	授業態度 課題
主体的に学習に取り組む態度	・英語に興味・関心を持ち，自ら学習に励み，積極的に英語を用いようとする。 ・ペアワークやグループワークに積極的に参加しようとしている。	授業態度 課題

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

英語の力をつけるためには日々の積み重ねが大切です。課題やテスト等に積極的に取り組みましょう。また，予習(本文和訳・音読)をした上で授業に臨み，授業を受けて分からないところは教員に質問し，理解を深めましょう。加えて，資格検定取得に挑戦し，自分の英語のスキルアップにつなげましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
論理・表現 I	2	1	I コース

教科書名 be English Logic and Expression I Clear (いっぴいな書店)

副教材名 be English Logic and Expression I Clear Essential Grammar Book (いっぴいな書店)

総合英語 Evergreen (いっぴいな書店)

1. 科目目標

- ア. 「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、コミュニケーションを図るために必要な発信能力を育成するとともに、論理の構成や展開を考察することで、情報や考えなどを論理的に工夫しながら伝える能力を養う。
- イ. 高校英語の基礎的な文法力を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	【Clear Essential Grammar Book】 Introduction① 英語の語順① Introduction② 英語の語順② Introduction③ 文の種類、文のつなぎ方 【Clear】【Clear Essential Grammar Book】 Lesson 1 Meeting People 自分のことを話す 時制①	<ul style="list-style-type: none"> ・第1文型, 第2文型, 第3文型について学んで理解する。 ・第4文型, 第5文型について学んで理解する。 ・平叙文, 疑問文, 接続詞について学んで理解する。 ・現在形, 現在進行形について学んで理解する。
	《1学期中間試験》		
	5	Lesson 2 Holidays and Weekends 休日・週末にしたことを話す 時制②	<ul style="list-style-type: none"> ・過去形, 過去進行形について学んで理解する。
	6	Lesson 3 Making Plans 予定について話す 時制③ Lesson 4 Travel 旅行について話す 時制④	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を表す表現について学んで理解する。 ・現在完了形について学んで理解する。
	7	Lesson 5 Study and Activities 学習・課外活動について話す 時制⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・過去完了形, 未来完了形について学んで理解する。
《1学期期末試験》			
【課題・提出物】 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト			

	【1学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）
--	---

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	Lesson6 Food Culture 食文化について話す 助動詞①	・助動詞(can / may)について学んで理解する。	
		Lesson7 School Life 学校生活について話す 助動詞②	・助動詞(must / should)について学んで理解する。	
		Lesson8 Daily Life 日常生活について話す 助動詞③	・助動詞(will / would)について学んで理解する。	
		Lesson9 Transportation Issues 交通機関の問題について話す 受動態	・受動態について学んで理解する。	
	《2学期中間試験》			
	10	11	Lesson10 Future Activities 将来したい活動について話す 不定詞①	・不定詞（名詞的用法）について学んで理解する。
			Lesson11 Staying Healthy 健康について話す 不定詞②	・不定詞（形容詞的用法・副詞的用法）について学んで理解する。
			Lesson12 New Products 新しい製品について話す 不定詞③	・不定詞(SVO+不定詞)，不定詞の進行形，受動態，完了形について学んで理解する
			Lesson13 Hobbies and Interests 趣味・感心について話す 動名詞	・動名詞について学んで理解する。
	11	12	Lesson14 The World of Nature 自然について話す 分詞①	・分詞について学んで理解する
Lesson15 Trouble and Accidents トラブル・事故について話す 分詞②			・SVO+分詞，分詞構文，分詞を使った表現について学んで理解する。	
《2学期期末試験》				

【課題・提出物】 ・夏期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト	
【2学期の評価方法】 定期試験素点：80%（中間試験及び期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）	
月	学習内容
3 学 期	1 Lesson16 Inventions 発明について話す 関係代名詞
	Lesson17 Cities and Towns 都市・町について話す 関係副詞
	2 Lesson18 Living Environment 生活環境について話す 比較①
	Lesson19 Social Problems 社会問題について話す 比較②
	Lesson20 Making a Wish 願い事について話す 仮定法
《3学期期末試験》	
【課題・提出物】 ・冬期休業期間中の課題 ・授業用ノート ・ワークブック ・小テスト	
【3学期の評価方法】 定期試験素点：80%（期末試験） 平常点：20%（課題提出，小テスト，授業態度）	
【年間の学習状況の評価方法】 定期試験素点：80%（5回実施される定期試験素点の平均点） 平常点：20%（各学期の平常点の平均点）	

3. 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 習得すべき知識や重要な概念を理解している。 習得すべき知識や重要な概念を既有的知識及び技能と関連付けて活用したりする中で，概念として理解したり，技能を身につけている。 	(a) 授業中の活動への取り組み状況・授業態度
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力を身につけている。 	(b) ノート・ワーク等の提出物
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能を習得したり，思考力，判断力，表現力を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で，自らの学習を調整しようとしている。 	(c) 小テスト・定期考査

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

英語の力をつけるためには英文法の理解を深めることが大切です。積極的に授業に臨み、ワークブックなどを用いて復習に力を入れましょう。また、疑問に思うことや理解できていない文法事項は教員に質問し、理解を深めましょう。1年次に英文法の基礎を固め、基礎学力到達度テストで満足のいく点数を取れるようにしましょう。

科目	単位数	対象学年	対象クラス
総合的な探究の時間	1	1 学年	全

教材名 「インターン (INTERN)」 (株)教育と探求社
 NOLTY スコラ探究プログラム「基本編」 (株) NOLTY プランナーズ

1 科目目標

学習指導要領における目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する。
- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

日本大学および

日本大学東北高等学校の教育目標

『自主創造』

自主的に学び、考え、広く世界的視野を持つ新しい自分、心豊かな自分を創造すること。

※日本大学マインド

多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

社会に貢献する姿勢

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

踏まえて

踏まえて

本校において定める「総合的な探究の時間」の目標

探究が自律的に行なわれるような学習環境の整備に努め、他者と協働的に取り組む中で、新たな価値を見つけ、自己の生き方や社会・職業などについて考え、発展的に自己の進路実現に向かっていくような学習展開がなされることを目標とする。

相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的にはたらくようにする。

他教科で身に付けた資質・能力

「総合的な探究の時間」において育てようとする資質や能力及び態度

- 1 生徒自身が、これまでの学びを相互に関連付けながら課題を発見し、解決する能力
- 2 自律的・主体的に学習活動に取り組むことができる資質
- 3 他者と協働して課題に取り組む態度
- 4 自己の生き方や社会の諸問題について考え、発展的に自身の進路実現に向かっていく態度

2 各学年の目標および探究するテーマ

1 年次：「自己理解とキャリア探究」 働く意義について考える。探究の基礎を学ぶ。

職業や自己の進路、キャリアに関するテーマ

2 年次：「自己啓発」 自ら課題を発見・追究・表現・解決する → ロハス探究

3 年次：「自己実現」 実体験を通じて社会に学び、社会への共生を図る。

3 学習計画及び評価方法

学期	回	教材	学習内容	学習のねらい
1 学期	1	【INTERN】	オリエンテーション	ワークを通して自分の仕事に対する考えに目を向け将来へのイメージを広げる。
	2		自分の仕事意識を知る	
	3		インターンの募集を見る	インターンする企業を決め、アンケート調査を通してその企業や事業についての理解を深める。
	4		仕事を始める	
	5		調査結果を報告する	
	6		課題を確認する	企業が社会に対してどのような価値を生み出しているのか、体験的に主体的に探求する。
2 学期	7	【INTERN】	課題に取り組む	
	8		プレゼンテーションを行う	
	9		合同研修を受ける	活動を振り返り、一人ひとりが「働く」ことについて自分なりに考える。
	10		最終レポート	
【前期の評価方法】			・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	
2 学期	1	【探究プログラム】	イントロ・興味関心1	探究とはなにか、なぜ行うかを考える。
	2		興味関心2	身の回りのものに目を向け、疑問を見つけ
	3		興味関心3	て、問いを立てる。
	4		興味関心4・課題設定1	
	5		課題設定2	課題を解決する道筋を立てる。
	6		情報収集1	情報収集の方法を学ぶ。
	7		情報収集2	情報を収集する。
3 学期	8		整理分析1	整理・分析の方法について学ぶ。
	9		整理分析2	実際に収集した情報を整理・分析する。
	10		まとめ表現1	表現方法について学び、発表の準備をする。
	11		まとめ表現2	発表し合い、疑問を気づきを得る。
	12		振り返り	探究活動を振り返り、次の課題を見つける。
【後期の評価方法】			・活動に臨む意欲と態度 ・ワークブックへの取り組み ・プレゼン資料、発表および聞く態度 ・生徒自身による自己評価	

4-(1) 評価の観点、内容及び評価方法

成果物の出来栄えなど、活動の結果だけを評価するのではなく、過程を評価する。

	評価の観点及び内容	評価方法
知識・技能	探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識および技能を身に付け、課題に関する概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価。
思考・判断・表現	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自ら問いを立て、情報を集め、整理分析して、まとめ・発表している。	討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価。

<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>探究に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。</p>	<p>学習や活動の状況などの観察記録による評価。 論文・報告書、レポート、ノート、作品などの制作物による評価。 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価。</p>
----------------------	--	--

4-(2) 評価基準 (ルーブリック)

	十分満足できる(A)	概ね満足できる(B)	努力を要する(C)
<p>知識・技能 知識・技能</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、既得の知識と関連付けて理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得て、ある程度理解することができる。</p>	<p>必要な知識・技能を書籍や資料等から得ることができない。得た知識・技能の理解ができない。</p>
<p>課題を発見する力 思考・判断</p>	<p>自分の興味・関心と社会問題を関連付けて、課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心から、または社会問題から課題を発見することができる。</p>	<p>自分の興味・関心、社会について理解が浅く、課題を発見できない。</p>
<p>課題を解決する力 思考・判断</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析することができる。 筋道を立て、論理的な考えを構築できる。</p>	<p>データや情報を適切に収集し、整理・分析をする努力ができる。 根拠や論理性に欠けた部分はあるが、自分なりの考えを提示できる。</p>	<p>データ・情報を適切に収集・分析することができない。 データ・情報に基づいた考えを思考することができない。</p>
<p>考えを他者に伝えることができる力 表現</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく、工夫のある発表をすることができる。</p>	<p>論理的に筋道を立て、分かりやすく発表しようとする努力ができる。</p>	<p>発表するための準備が不十分である。</p>
<p>自律的・主体的に学習に取り組む力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組むことができる。</p>	<p>課題の解決に向けて意欲的に継続して取り組むことができる。</p>	<p>活動に意欲的に取り組むことができない。</p>
<p>他者と協働する力 主体的に学習に取り組む態度</p>	<p>班員と目標を共有し、価値観や意見の異なる人の意見も尊重し協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力して活動できる。</p>	<p>班員と協力する姿勢が見られない。</p>